

DV 被害者支援の 質向上を目指したパイロット講座

公益財団法人 東京 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

助成事業の概要

(実施目的、時期、内容等)

助成事業である「DV 被害者支援の質向上を目指したパイロット講座」として、「次世代リーダー層育成研修：DV 被害者支援者・組織がいきいきと支援できる組織マネジメントについて考える」という集合研修を実施した。この研修は、昨年起きた東日本大震災や和歌山県での台風 12 号被害の教訓をもとに内容を変更して行った。非常時には日頃の脆弱な部分が顕在化し大きなダメージにつながることで、また災害時に増える女性への暴力により女性支援に携わる支援者への負担が増してバーンアウトにつながりやすいことなどから、組織マネジメントの視点を導入して日頃から基盤を強化する必要性が高まっている。しかし、DV 被害者支援の現場では、圧倒的に組織マネジメントについての認識と知識が不足していることから、次世代リーダー層を対象に組織マネジメントについて考える研修を実施した。研修は少人数制のグループ形式という参加型研修で行い、参加者は東日本大震災の被災地である福島、台風 12 号の被災地である和歌山をはじめ、首都圏および神戸と大阪という幅広い地域から 14 名が参加した。内訳は、民間支援団体から 11 名、行政から 3 名である。14 名のうち、2 名が男性であった。

事業の成果

(目的達成度、得られた成果や課題、参加者の感想等)

<研修の構成>

今回の研修では、支援者のバーンアウト防止や軽減の視点も含め研修を構成した。その一つは、少人数での研修である。少人数での研修は、参加者一人一人が「その他大勢」としてではなく、尊重すべき個人として扱われる場面を、他人数の集合研修よりもずっと増やすことができる。もう一つは、グループワーク形式の導入である。バーンアウト防止・軽減には「話す」ことの効果は大きい。日頃支援者として当事者の話を「聞く」ことが多いが、同業者と日頃の悩みを共有・共感することによって気づきの促進につながった。研修ではこれらの構成によって、知識やスキルの獲得のみならず、日常業務の中で情緒的に消耗することが多い支援者を少しでもエンパワメントすることができ、何よりも「話す」ことや気づきの促進によって支援者としてとても大切な「主体性」を育むことにもつながることができた。

<内容>

女性の支援の現場は支援者の関わり方や働き方がとても多様であるが、経営の視点から自分たちの団体や活動をとらえ直すことで、抱えている課題についてのヒントをそれぞれ持ち帰ってもらえた。参加者からは、「何か一つでも出来ることを実行していきたい」「何よりもエンパワーされました。これからもがんばろうと思います」「具体的な改善方法を知ることができた。自分でも考えることができた」「自分の課題を整理できた。どうしても自分がもう少しがんばればとか、何とかしないとと思っていたが、それが個人の問題でな

く組織の問題だと知ることができた」「解決策のツールが増えて、うつうつとしたものが、スッキリした感じ」「仲間がいるということは、力強いと感じたことが良かった」「どこでも同じ共通の悩みがあることがわかった」「女性支援活動団体にマネジメントが必要だ！という視点自体が新しくそしてタイムリーでした。」「どの団体も似たようなところで苦労しているなど共感」「自分たちのグループに足りないこと、明確になった」などの感想があった。

<旅費負担の効果>

DV 被害者支援においては、団体の財政状況そしてそれに伴った支援者の雇用の問題は大きな課題である。特に民間団体においては、多くの支援者が不安定雇用の中で難しい支援を行っているのが現状である。また、DV 被害者支援においては、DV 被害者を安全に保護し自立を促進するために広域の連携が欠かせないが、その連携や関係性において課題は山積している。私たちの調査においても同僚間及び同業者間の関係構築は、支援者のバーンアウト防止や支援者の質向上に大きく影響していることが分かっているが、今回参加者の旅費を助成金で負担させていただき広域の支援者が集まって一緒に研修を受けることができたことは、支援者同士の顔の見える関係作りにも大いに役立った。

<課題>

組織マネジメント研修のニーズの高さ及び期待に対して、今後はどのようにこの研修を効果的に実施・継続していくか検討することが課題である。

■ 今後の展開

参加者から出てきた要望を踏まえて、今後の展開として以下のことが考えられる。

- ・団体内での組織マネジメント研修の実施（⇒同僚と共有することで団体内での取り組みが具体化し促進する）
- ・組織マネジメントにおけるテーマ別の内容の研修の実施（参加者から出てきた例「組織内のコミュニケーション」「団体の種別」「段階を追ってステップアップしていけるようなシリーズもの」「次の段階ではもう少し支援団体にしぼったマネジメントについての講座」（⇒内容を絞ることで、より学びが深まり、具体的なアクションにつながりやすい）
- ・もう少し長い時間（日程）の研修の実施（⇒日常を少し離れて、客観的に集中的に考えることができる。支援者同士がより長く時間を共にし共有することで、バーンアウト防止・軽減を期待できる）
- ・同じメンバーでのフォローアップ研修の実施（⇒同じメンバーで集まることで、どれだけ実現・変化があったかなどモニタリング効果も含め意識と行動の継続化につながる）